

## 生物生産学部新入生諸君に人

田 喜 由 吉 執筆者

生物生産学部長 伊 藤 啓 二

入学おめでとう。大学に入学した嬉しさは今までの入学試験の苦労を償って余りあるものであろうと思う。また、一面ではこれから大学生としての新しい生活への期待、さらには将来の設計にと胸をふくらませていることであろう。

さて、諸君は生物生産学部の専門の講義を受ける前に、これから一年半総合科学部で一般教育の履修をするが、この間にぜひ自分の選んだ専門領域が他の学問分野や社会全体の中でどのような意味をもっているかをしっかりと考えておいてほしい。諸君達も恐らく今までに大学は自分で勉強するところ、という話は何度も聞かされたに違いない。今までの高校の授業では理科系なり文科系なりの区別はあったかもしれないが、大多数の者が同一方向に進むカリキュラムで勉強しているはずである。しかし、大学ではこれからそれぞれの専門分野に従って、次第に方向が分かれる。諸君達が志した生物生産学部とはどのような分野の学問をするところか、改めて確認をしておく必要がある。

広島大学の統合移転計画が進み、数年先には東千田キャンパスの総合科学部も西条キャンパスに移転することになるが、それまでは生物生産学部とはかなりの距離があり、週一回の学部専門の授業はあるものの、専門を理解するには十分でないであろう。私自身、大学では農学部に入学したが、当初は自分の学問分野に対する知識がなく、いろいろ苦労した記憶がある。

現在、情報化時代といわれ、日々耳目に接する

中にも日進月歩する科学技術に関する情報も多い。特に生物科学部門がいわゆるバイオサイエンスとして極めて華やかである。しかし、これらのマスコミに取り上げられ、話題となっている部分は、学問の全領域のうちの限られた一面のみである。願わくは学生諸君の目は広く開かれたものであってほしい。

大学は真理探究の場であるという言葉も昨今は耳に入ることが少なくなったが、依然として大学では研究が第一であることは変わらない。新入生の諸君にとって、研究という仕事も遠い話のように聞こえるかもしれないが、専門課程では確実に卒業論文作成の段階で研究者の一員としての力が必要になる。ただ、大学の研究とはレンガを一つ一つ積み上げると同様で、通常の場合、かなりの年月をかけての努力と忍耐が必要である。どんな小さいかけらでもよいから一つでもレンガを積めればそれを境に科学者の一員になることができる。

現代における科学や技術の発達は確かに急速で、そのため既成の知識や技術はすぐ古くなる。したがって、大学で学ぶのは単に知識の詰め込みのみではなく、その知識を基礎に発展させる心を培うことが重要である。誰もがいつかは死んでしまう終わりに、大学生としての生活は高校時代より学ぶ事についても、自分の健康についても第三者からの干渉は少なく、自主的な判断が必要である。卒業後においても、悔いなく回想出来る有意義な学生生活を送られることを願うものである。